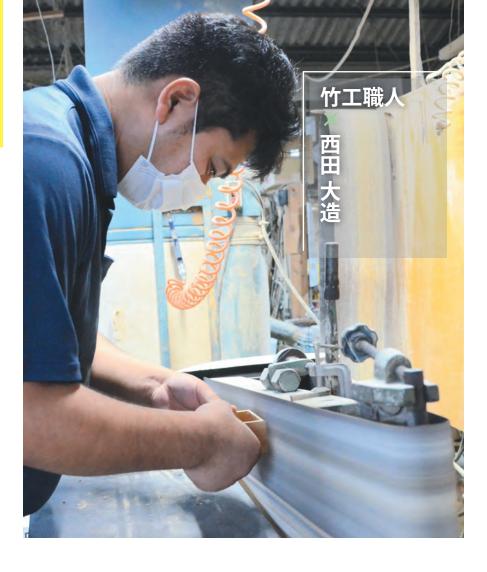
#

Vol.06



西田 大造 さん (37)

湯田地区出身。実家の西田 竹材工業所は、3代続く竹 製品を作る会社。宮之城高 校(現薩摩中央高校)を卒 業後、愛知県で日本特殊陶 業に就職。26歳で帰郷。 家業を継いだ現在は、妻の 裕子さんも同社に勤めてい る。湯田分団に所属し、4 人の子どもの父でもある。



ばれる細かい彫り込みができる加工 ▼レーザーで裁断やマーキングと呼 ね」と話します。 身近に豊富にあるのは良いです 加工が難しい素材です。 だけ

機を持つ同社は、しゃもじやターナ

ーといった製品のほとんどを県外に

す」と説明します。 るのはこの業種では珍しいと思いま 品にレーザーで細かいマーキングを 向けて販売しています。西田さんは キングが両方できる機械を持ってい 入れる依頼がきます。カットとマー 「ブランド化を目指す会社から、

町おこしなど、 西田大造さんです。 のが有限会社西田竹材工業所。3代 調理器具などを製造、販売している 区で昭和20年に創業し、 かせません。 有数の竹林面積を誇るさつま町。 目として日々技術を磨いているのが 産品としてのタケノコや竹を使った ▼早掘りタケノコの産地で全国でも そのような中、 竹は町を語る上で欠 竹を使った 湯田地

県外に就職。しかし「地元で何かし は自然のものなので反りや曲がりが 竹を扱うとその難しさを実感。 た」と話す西田さんですが、 を見ても特に何も思いませんでし を継ぎました。「子どもの頃は作業 てみたい」と26歳でUターンし家業 ▼西田さんは、宮之城高校を卒業後 実際に

パソコンからデータを 入力することで裁断や 彫り込みができるレ-ザー加工機。



1mmに満たない細か い模様も正確に表現で きます。

のを見ているとうれしくなります の人たちがスキルアップをしていく 今では若い人が多く入ってきて、 がさつま町に戻ってきたときには従 ね」とやりがいを話します。 業員が5、6人しかいませんでした。 ほどしかありません。この会社も私 った竹の加工会社が、 大切にする西田さん。 後はやっぱり手作業です」と品質を なりました。機械で加工しても、 なり丁寧な仕事が認められるように 「以前は外国の大量生産品ばかり 最近は質を求める流れに 今では数える 「昔は多くあ 最